

仲原小学校学童保育に関する請願書

紹介議員

本 田 芳 枝

令和7年5月26日

粕屋町議会議長
末若 憲治 様

請願者

仲原校区の学童保育所の拡充を願う親子の会
代表 吉郷 紗知



請願の趣旨および理由

こども家庭庁は、こどもが安心して過ごせる「居場所」は、ただの建物や場所だけではなく、そこで過ごす時間や、そこで関わる人とのつながりなど、あらゆる環境のことを指すと説明しています。つまり、どこへ行くか、どんなふうに過ごすかは子ども自身が決めるべきであり、その選択を大人は必ず尊重しなければなりません。

さらに、子どもが大きくなっても、一人で家にいるのが苦しいと感じるのであれば、大人の都合や意向で判断するのではなく、子どもの意思を優先して安心できる場所を提供する必要があるのです。

しかし、町内、特に仲原小学校の学童施設では、今、3年生の子どもは受け入れていません。昨年から3年生はほとんど入れない状況になっているため、3年生以上の子どもたちは学童に申し込む家庭が少なく、その結果、実際に学童に入りたいと考えている子どもの数（隠れ待機児童）は50人以上になると予想されています。

このような状況では、親が仕事を辞めたり、キャリアをあきらめたり、働く時間を短くせざるを得ない場合もあります。つまり、子どもたちが安心して過ごせる場所がなく、十分に育てられないことから、非常に差し迫った問題となっており、家庭や地域全体に大きな影響を与え、子どもたちの将来にも関わるため、早急な解決が求められています。

また、福岡県学童保育連絡協議会の方に相談をしたところ、県内の中でも粕屋町は待機児童が多く、現状を改善するのが難しい状況にもかかわらず、市制を目指してさらに人口を増やす方向で検討がなされています。

私たちの願いは、仲原小学校の地域に学童保育や子どもが安心して過ごせる居場所をもっと増やすことです。そうすることで、誰でも安心して子どもを育て、一生懸命働ける社会をつくり、子どもたちが大切に扱われ、未来に希望を持てるようにしたいと考えています。そのためにも、子育て家庭を支える大事な社会資源として、学童保育の維持と拡充が欠かせません。

令和6年3月に発表された、「粕屋町立幼稚園・保育所 再編整備計画」では、令和2年から令和5年までの0歳、1歳、2歳の子どもの待機児童はすべて0人でした。つまり、町が思っているほど保育への需要（特に0～2歳の子どもを預かるニーズ）は高いとはデータから読み取れません。

このため、仲原幼稚園跡地に新たに保育園を作る必要性や、急いで対策を打たなければならない状況ではないと考えられ、既存の保育園で十分に対応できているという見方もできます。また、万が一0～2歳児が待機児童となった場合でも、育児休業給付金が支給される仕組みがあるため、生活面でのサポートは確保されています。

このように、現在の保育施設で十分な対応が可能な状況であり、無理に新しい保育園を建設する必要は、今のところ低いと言えるのではないのでしょうか。

よって、すべての子どもの権利を保障するため、以下の対策を実施するようお願いいたします。

請願事項

・国の補助で事業であるこどもの居場所づくり支援体制強化事業の国庫補助をフル活用し、地域公民館や民間物件等を活用した NPO 法人、民間学童クラブ等の誘致を実施し、仲原小学校の学童保育を町内他小学校と同様に 3 年生以上でも入れる環境を 1 年以内に整えること。

・上記が困難な場合、仲原幼稚園廃園後の施設を町立の小規模保育所開園ではなく、仲原小学校の学童保育施設として活用すること。

以上。

